



まいづる

農業委員会だより

No.

61

平成29年10月

発行／舞鶴市農業委員会 舞鶴市字北吸1044 TEL 66-1023 FAX 62-9891



主な内容

○会長挨拶	2・3
○新農業委員・推進委員の紹介	2・3
○研修会の報告	4
○万願寺甘とうGI登録	5
○万願寺まつり	5
○新規就農者紹介	6
○元気な農業者	7
○スイーツ紹介	8

全国に広く知られるようになった「万願寺甘とう」ですが、一般的には万願寺とうがらしで知れ渡っており、その違いがまだまだ分かりにくいようです。

5月はじめから、11月末まで続く出荷作業。多い日には3トンを超える量の選別を12人で行うそうです。朝の8時半から、夜の9時を過ぎる日もあり、主婦の方は大変です。

ここ舞鶴からは、主に府下に出荷されていますが、最近は大阪の市場にも出回るようになりました。今年の収穫もあとわずかとなりました。

“食い”を残さぬように。

(嵯峨根委員)

ご挨拶

私は平成29年7月20日に開催されました農業委員会におきまして、会長に推挙され就任いたしました。もとより浅学菲才の身、その重責に身が引き締まる思いですが、皆様方のお力添えを頂き、なんとか任務を全うさせていただきます所存です。

本市農業委員会は法の改正を受け、今回から新体制で発足する事となりました。従来当農業委員会は選挙委員20名、推薦委員7名の計27名体制で執行していましたが、今回から農業委員19名と新たに農地利用最適化推進委員17名を加え、36名体制となりました。特に委員の中に若手農業委員、女性農業委員の方にも参画いただき、それぞれの立場で意見を出していただく事としております。

農地利用最適化推進委員は、これまでなかった制度で、農地の利用状況や、農地の利用意向調査を主に努めてまいります。農業委員と最適化推進委員の意思疎通や共通

認識を深めるため、東・西・加佐のブロックに分け、ブロック毎に年3回程度の地区別会議の開催を計画しております。農業委員と最適化推進委員が両輪となり、舞鶴市の農業の発展と農地の保全に努めていきたく、覚悟を新たにしているところです。

舞鶴の農業は中山間地域で展開しており、小規模な農地と農業者の高齢化、また有害鳥獣の被害もあり、耕作放棄地が増加していくなど、課題が山積し先行きに不安が出ているところですが、一方で若い人たちが中心に新規就農を目指す方々も徐々にではありますが増えてきています。舞鶴の特産品であるお茶や万願寺甘とうなどの生産も、年々増加傾向にあるようですので、担い手を中心に益々頑張ってもらいたいと希望しています。

今後当農業委員会としても農業振興策や有害鳥獣対策等「農業を守り、育てる」体制制作りにまい進致しますので、農家の皆さまのご理解・ご協力をお願い申し上げます。

(谷口会長)

舞鶴市農業委員・農地利用最適化推進委員の紹介

加佐地区 舞鶴市農業委員
(H29.7.20 ~ H32.7.19)

芦田 大三 副会長: 今田 寿孝 霜尾 共造 眞下 新一
植和田 英子 松本 圭司 臼井 眞治

西地区 舞鶴市農業委員
(H29.7.20 ~ H32.7.19)

嵯峨根 秀樹 櫻井 昭秀 安原 和彦
森川 勝文 辻 とよ子

東地区 舞鶴市農業委員
(H29.7.20 ~ H32.7.19)

永野 清 佐藤 正之 梅垣 貞子 尾上 亮介
松岡 秀雄 池田 三郎 会長: 谷口 和

加佐地区 舞鶴市農地利用最適化推進委員
(H29.7.20 ~ H32.7.19)

12区(岡田上): 岩崎 俊彰 13区(岡田中): 亀井 重義 14区(岡田下): 野間 久一 15区(八雲・由良川左岸): 山上 良太 16区(八雲・由良川右岸): 岸田 守 17区(神崎): 山口 勝平

東地区 舞鶴市農地利用最適化推進委員
(H29.7.20 ~ H32.7.19)

1区(東大浦): 内海 宏司 2区(西大浦): 安田 隆志 3区(朝来): 大石 昌福 4区(志楽): 前田 隆文 5区(与保呂): 土佐 弘 6区(祖母谷・倉梯・新舞鶴等): 美濃 一男

西地区 舞鶴市農地利用最適化推進委員
(H29.7.20 ~ H32.7.19)

7区(中舞鶴・余内): 瀬野 昇 8区(旧町・中筋): 後野 幸一 9区(四所): 内藤 幸吉 10区(高野): 今安 七男也 11区(池内): 保理江 文雄

女性農業委員・推進委員 研修交流会に参加して

平成 29 年 9 月 28 日（木）午後 1 時半から京都市のホテルセントノーム京都にて標題の交流会が開催されました。

最初の講演会では、京都移住コンシエルジュの千葉明日香氏が「農業農村への新規参入・移住促進について」を話されました。Uターン、Iターン移住希望者に対して、移住者と地域の双方を支援し、お互いのニーズに合わせてマッチングを実施している京都移住コンシエルジュの活動について学びました。また、実際に移住者を受け入れておられる地域の方々がその御苦労やメリット・デメリットの報告をされました。（舞鶴市からは植和田委員）

次に、臨時総会があり、規約改正、役員の選出を行い、今後の活動についてと全国農業新聞の普及促進の取組についても説明がありました。

この交流会に参加して、色々な事を学んだ1日でした。
（辻・植和田委員）

農業者年金

で安心、豊かな老後を！ ～農業者年金に加入しましょう～

- 農業者なら広く加入OK
- 税制上の優遇措置あり
- 農業に担い手には手厚い政策支援
- 少子高齢時代に強い年金
- 保険料は自由に設定OK
- 終身年金で80歳まで保証

農業者年金の内容やご相談については、最寄りの農業委員会かJA

または農業者年金基金（TEL:03-3502-3199）にお問い合わせください。（農業者年金加入推進部長 霜尾委員）

農業者年金加入 促進特別研修会

平成 29 年 9 月 26 日に京都市のホテルセントノーム京都において、農業者年金加入促進特別研修会が開催されました。研修会には、舞鶴市から農業委員、推進委員及び事務局を合わせて7名が参加しました。

京都府農業会議の安本専務理事兼事務局長は、農業者年金は将来を保障する制度であり、今回の研修をこれからの農業者年金の加入の推進に役立ててほしいとの挨拶をされました。

研修会では、農業者年金基金の中里茂理事より、「農業者年金の概要と加入促進」と題した研修が行われました。農業者年金制度の特徴としては、国民年金に加入している20歳以上60歳未満の農業従事者なら誰でも加入が可能であること、保険料は月額2万円から6万7千円まで自由に選択できること、などが挙げられました。

その後、舞鶴市農業委員会の谷口和会長が市内の実践報告をしました。丁寧に情報収集をし、地道に加入促進に取り組んでいくことが大切であるとの報告がされました。

1人の委員につき、新規加入者1人を目指し、これからも取り組んで参ります。
（梅垣委員）



万願寺甘とう GI 登録

平成 29 年 6 月 23 日に、京のブランド産品である「万願寺甘とう」が「地理的表示 (GI) 保護制度」に京都府内で初めて登録されました。

万願寺甘とうとは

万願寺甘とうとは、大正末期ごろに、京都府舞鶴市万願寺地区で栽培され始めた大型のとうがらしで、地名の「万願寺」から名付けられました。甘みと独特の風味があり、肉厚で食べ応えのあるやわらかい果肉が特徴です。

地理的表示 (GI) とは

地域で長年培われた生産方法や、気候・風土・土壌などの生産地の特性により、高い品質と評価を獲得するに至った産品の名称です。こうした名称を国が知的財産として、登録・保護し、生産者の利益増進や、消費者等の利益保護を図る制度として、「地理的表示保護制度」があります。



万願寺まつり

万願寺まつり実行委員 徳永 啓二さん

万願寺まつりの第 1 回目は 2011 年「NPO 法人 KYO ふるさと加佐」の主催で始まりました。目的は、万願寺甘とうの市内で最大の産地である加佐地区を美味しく楽しく盛り上げ、加佐地域と万願寺甘とうのファンを増やす為に開催されました。大庄屋上野家を会場に開催され入場者 300 名と大盛況となりました。

万願寺まつりを PR する方法として考えたのは、万願寺と豚バラ肉を串カツにした「串カツ万願寺」の販売です。また、万願寺まつり当日にカンパを集める事にしました。工夫としては、一口 500 円カンパを集めて、御礼に万願寺ペンダント (ナマの万願寺を紐で結んだもの) と万願寺ソーダもプレゼントするとうものでした。

宣伝の工夫としては、「ポスターの旅」を始めました。ポスター貼りに御協力頂いた商

店や施設を写真に撮って万願寺まつりのフェイスブックで紹介していくというものです。この取り組みで万願寺まつりのファンが着実に増えていきました。

2013 年からは縁あって京都交通さんによるシャトルバスの運行が始まりました。まつりが終わってからも、マイナーチェンジされ、万願寺甘とう号となり、路線バスとして元気に運行しております。

そして、2016 年に、万願寺まつり実行委員会は京都府より活動の評価され、京都府開庁記念日記念式典において、地域力再生功労者として表彰をいただきました。

今年も、7 月 29 日に開催され、大盛況となりました。

J A 京都にのくにをはじめ、舞鶴万願寺甘とう部会、京都交通、ボランティアスタッフの方々など沢山の御協力を頂いたと感じております。皆さまの応援、参加がなかったら、これほど盛り上がりな



かったと思います。参加して一緒に楽しんでもらう事が大事だと思えました。万願寺まつり実行委員会のメンバー達とは常に自分達が楽しもうという気持ちを大切にしてくれました。これからも、暖かい目で見守っていただけたらと思います。

(今田委員)



キャベツの苗造りに励む

新規就農者紹介

永田史朗さん (36) 白屋

永田史朗さんは、舞鶴市生まれの 36 歳です。

農業との出会い

農業をやろうと決めたまっかけは、親しい友人に勧められ、舞鶴の加佐地区の農家で 8 年間、農業の仕事を手伝い学んだこと。

白屋の圃場を選んだきっかけ

加佐地区の水害の被害を見て、水害の少ない朝来地区にて圃場を探していた所、白屋の農業委員に適切な圃場があると勧められ検討した結果決められました。また、地元とのかかわりは、農事の手伝いや、白屋そばの会“のそば作り。祭りがあるときは、地区民として手伝いをするなど地区に溶け込まれている様子です。

「担い手養成実践農場研修」

平成 27 年 7 月から平成 28 年 6 月までの 1 年間「担い手養成実践農場研修」を受け、修了されました。研修期間中には、万願寺甘とうの栽培と生産物の原価計算など農業経営の基礎を学んだ、との事です。

作付け野菜

平成 27 年は、万願寺甘とうを露地で栽培されていましたが、平成 28 年にハウスを建て、施設栽培と露地栽培をされました。平成 29 年には、ハウス 2 棟と露地にて栽培し、経営の柱にしておられます。施設栽培は V 字仕立て、露地栽培は、平面仕立てで作業の効率を図られておられます。また、通作時間を無くす為、離れた圃場のハウスを、白屋の圃場に移設し、そこでミニトマト栽培をされています。現在の経営面積は合計 30[㍓]。主なものは万願寺甘とう 8[㍓]、ミニトマト 3[㍓]、里芋 2[㍓]、堀川牛蒡 2[㍓]で、その他一般野菜を作付けされています。

今後の楽しみと意気込み

今は、万願寺甘とうが病気などで、最終まで収穫する事が出来ないのが、野菜栽培の技術をさらに学び、最終まで収穫すること。面積拡大より、同じ面積で収量を最大限上げること。また、カラフルなミニトマトを J A 直売所の人気商品

に育て経営の安定を図ることでだそうです。

さらに、出来れば、他の京のブランド野菜と水稲の栽培もし、これから新規就農希望される方のモデルとなるよう頑張っていきたいと意気込みを語られました。

(大石・松岡委員)



「万願寺甘とう」の手入れをする永田さん

京都府農地中間管理機構から

農用地を借りたい方へ

農用地の借受希望が、いつでも応募できるようになりました

京都府農地中間管理機構では、農用地等の借受けを希望される方を、これまで年 2 回に限って募集していましたが、平成 29 年 4 月から、通年でいつでも応募いただけるように改めました。併せて、一度応募いただければ、ご辞退されるまで借受希望者としての権利が継続することとしました。

みなさまのご応募お待ちしております。



京都府農業総合支援センター
(京都府農地中間管理機構)

☎ 075-417-6868



今安さん夫妻

(赤野)
今安千代子 さん (80)
昭 さん (83)
ご夫妻

東舞鶴駅から北へ車で15分、南に舞鶴湾、北に三浜峠、その麓に位置する、赤野の今安さんご夫婦を訪問させていただきました。

「赤野はどこなところですか」とお聞きしますと、「民家は約30軒あり、長寿の所と聞いています。また、南に開けているため、南風が強く、気温も佐波賀に比べてやはり寒く、朝日が早く西日は当たらない場所です。」とおっしゃっていました。

約40年前まで赤野地区では、イチゴのハウス栽培が盛んで、売り上げも相当の金額を得られていたそうですが、残念ながら、今はそうでもないようです。

昭さんは、平小学校的の農業科に、夜間で4年間通われ、以来農業一筋に現在まで来られました。

現在今安さんは、水稻を70アール、ビニールハウス5棟に万願寺甘とう、金太郎まくわ、トマト、きゅうりなどを栽培されています。

水稻はコシヒカリで、ライスセンターを通じJAに出荷されているそうです。

万願寺甘とうの時期が終わると、次はみず菜を4,000袋ほど出荷されます。また、金太郎まくわは200本、種から自分で作り、トマトは苗250本を分木し、500本栽培されているそうです。

金太郎まくわを栽培する際のこだわりとして、4月にネット栽培仕立てにすることで、タヌキなどの被害を防ぎ、太陽光が全体に当たるように栽培されているそうです。

最近、昭さんは膝、千代子さんは目が悪くなり、病院通いで農業に専念しづらく、楽しみであったJAの旅行にもなかなか行けず、好きだったお酒も飲む量が少なくなってしまうましたが、今は子供さんの所に行くことが楽しみだ

と言っておられました。

水稻の耕作や、ビニールハウスなど、広い面積を耕作しておられますので、いつまでもお元気で長く活躍していただけますよう、祈念いたします。

(嵯峨根委員)



この国の
農と食を
伝えます。

全国農業新聞は農業者の
公的機関である
農業委員会系統組織が発行する
週刊の農業総合専門誌です。

全国農業 新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

週刊 金曜日発行
月700円、年8,400円
(消費税込)

■購読のお申し込みは、
農業委員会事務局へ
TEL 0773-66-1023

■発行所
全国農業会議所

舞鶴茶を使った抹茶のスイーツ vol.3

舞鶴の特産品としてブランドになっている舞鶴茶で作る抹茶を使ったスイーツを 3 点紹介します。濃厚な色・香り・熱を加えても風味がある特徴が生かされたスイーツです。

- ・マイヅルプリン 植和田抹茶 … 抹茶のキャラメルソースが絶妙の味わい
- ・植和田抹茶フィナンシェ … 焼き菓子で色・香り・熱が加わり、より深められている
- ・ル・ジャポン -UEWADA- 抹茶 … 香り豊かな抹茶とチョコレートで茶畑と由良川を表現したクリスマスケーキ



アメイロ ビストロ アルル



ラ・クロシェット・ヒラノ

舞鶴市農業委員会のホームページをご覧ください！



- 各種申請書のダウンロード
- 農地の転用、売買などの手続きの案内

などがあります。

舞鶴市のホームページ ⇒ 「舞鶴市農業委員会」で検索！ (<http://www.city.maizuru.kyoto.jp/>)

編集後記

■ 今回のまいづる農業委員会だよりから農業委員の制度改正で編集委員のメンバーが変わりました。

新メンバーになり、初めての発行となります。

発行にあたっては、農業政策の改革の中で、地域や生産農家の動きや取組等、身近な情報をお伝えできればと張り切っています。お気づきの情報等ございましたら、農業委員会事務局まで一報いただければ幸いです。

(今田委員)

● 広報委員 ●

委員長	嵯峨根 秀樹
副委員長	梅垣 貞子
委員	今田 壽孝
委員	尾上 亮介
委員	大石 昌轟
委員	野間 久一